軍艦島

世界文化遺産

【ぐんかんじま】

GUNKAN JIMA

長崎半島から西に約4.5km、三菱石炭鉱業（株）の主力炭鉱があった高島から南西に約2.5km、長崎港から南西に約18kmの海合いに位置する「端島（はしま）」。

端島は、南北に約480m、東西に約160m、周囲約1,200m、面積約65,000㎡というような海底炭鉱の島で、岸壁が島全体を囲い、高層鉄筋アパートが立ち並ぶその外観が軍艦「土佐」に似ていることから「軍艦島」と呼ばれるようになりました。

炭坑閉山後、長い眠りについていた「端島炭坑」ですが、2015年、「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つとして世界文化遺産に登録されました。日本の近代化を支えた産業遺産「端島炭坑」は、石炭産業の歴史を今に伝えています。

今、新しい歴史を刻み始めようと…

上陸にあたっての注意事項

1. 見学施設区域（見学広場・見学通路）以外の区域に立ち入らないでください。
2. 見学施設においては、次の行為をしないでください。
   （1）柵を乗り越えるなど危険な行為　（4）喫煙
   （2）施設を汚す行為　（5）他人の迷惑となる行為
   （3）飲酒（船内を含む）
3. 安全誘導員その他の係員の誘導・指示に従ってください。
4. 見学施設を安全に利用するのに適した衣服・靴を着用してください。
5. ごみは持ち帰ってください。
6. 未就学児童又は身体障害者等一人での歩行が困難な方には、保護者又は介助者が同行してください。

※ 見学施設は、気象又は海象条件によって利用できないことがあります。利用できないときは、施設見学料はお返しします。
※ 飲酒されている方は、危険防止のため見学施設の利用はできません。
※ 小学校の児童については、保護者の承諾書が必要です。

施設見学料

※上陸に際しては、別途船代も必要となります。

	個　人
一般（15歳以上）	650円
こども（小学生・中学生・高校生）	320円

お問い合わせ

長崎市コールセンターあじさいコール
TEL.095-822-8888

軍艦島を学ぶ

軍 艦 島 資 料 館 TEL.095-893-1651
高島石炭資料館 TEL.095-896-3110（長崎市高島地域センター）

長崎市公式観光サイト travel nagasaki

島の暮らし

端島では、学校や病院、商店の店か、映画館やバイオスコホールなど娯楽施設もそろっていましたが、木々を育てる場所がなかったため、PTAなどが協力してアパートの屋上に土を運び、花や野菜を育てました。これが日本初の屋上菜園だったといわれています。「緑なき島」にあっても緑を増やし、安らげる空間がほしかったのでしょう。端島ならではの工夫です。

道端や「子供遊園地」が青空市場になり、多くの住民と行商人で賑わいました。

端島は常に高波の被害を受けてきました。特に台風のときに襲いかかる波の威力は想像を絶するものでしたが、台風に慣れっこの島の人々は、屋外で大波見物をすることもありました。

端島年表

1810（文化 7）年	端島で石炭発見（高島では、1695年に石炭発見）。その頃の端島は草木のない水成岩の瀬にすぎなかった。
1869（明治 2）年	長崎のスネ海運社が端島炭坑の開発に着手。
1887（明治20）年	第一竪坑が開坑。（44mまで開削し、1897年坑内火災による閉鎖された。）
1890（明治23）年	三菱の経営となる。三菱が、鍋島藩ゾ島さ10万円で買収し、高島の支坑として1891年から採炭を開始した。
1895（明治28）年	第二竪坑が開坑。（168mまで開削し、1934年に改修が完了、追掘619mに及び、開山まで採掘した。）
1896（明治29）年	第三竪坑が開坑。（161mまで開削し、1935年まで採掘した。）
1916（大正 5）年	日本最初の鉄筋高層アパート完成。
1921（昭和16）年	年間出炭最高記録41万1,100トン達成。
1925（大正14）年	第四竪坑が開坑。（370mまで開削し、通常は、排気用として使用、第二竪坑に支障がある場合はその代用として使用され、閉山まで採掘した。）
1945（昭和20）年	石炭積込中の日本丸が魚雷を受け沈没する。
1955（昭和30）年	高浜村端島と高島町が合併し、高島町端島となる。
1965（昭和40）年	三ツ瀬新坑より出炭開始。（閉山まで採掘した。）
1974（昭和49）年	1月15日端島炭鉱が閉山。同年4月20日に無人島になり、現在に至る。

GUNKAN JIMA

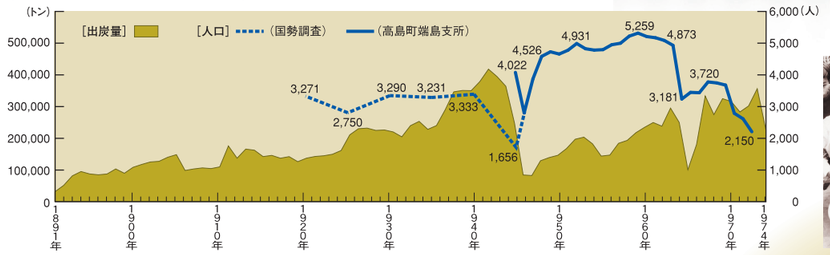
端島の歴史

端島では、1810年頃に石炭が発見され、佐賀藩が小規模な採炭を行っていましたが、1890年三菱合資会社の経営となり、本格的海底炭坑として操業が開始されました。

出炭量が増加するにつれ人口も増加し、狭い島で多くの人が生活するため1916年には日本初の鉄筋コンクリート造の高層集合住宅が建設され、最盛期には約5,300人もの人々が住み、当時の東京都の9倍もの人口密度にまで達しました。

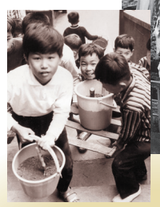
エネルギー革命により、エネルギーの需要が石炭から石油に移ったことで、出炭量も人口も徐々に減少し、1974年1月に閉山した後は、同年4月に無人島になりました。

島内人口と出炭量の年次変化



資料：三菱鉱業セメント株式会社「三菱鑛業社史」「高島炭礦史」、建築学会論文「軍艦島の生活環境（その2）」長崎造船大学（現 長崎総合科学大学）片寄俊秀教授

▲ 屋上菜園



▲ 屋上に土を運ぶ子どもたち

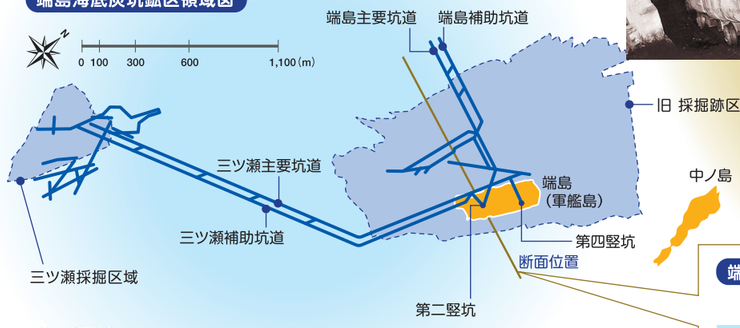
炭坑の仕事

1891年から1974年の閉山まで約1,570万トンもの石炭を採掘した「ヤマの男」たち。海底炭鉱として開発が進められた端島炭坑の坑道は、1935年には当時では日本最深となる深さ606mに達しました。1949年以降進められた掘削により、最終的には深さ1,010mに達しました。炭層は深さ600m付近までは40度、600m以深は60度を超える急傾斜で、坑内は気温30℃、湿度95%という条件下の仕事でした。鉱内で交わされる「ご安全に」という挨拶に、「絶対に事故を起さない」という気持ちが込められていました。

◀ 炭車による硬（ボタ）の搬出

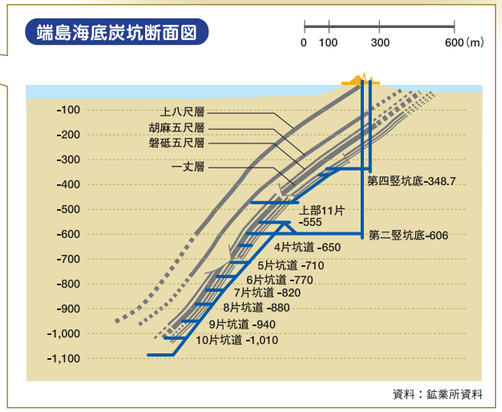
▼ 1日の作業が終わり昇坑のため人車待合所で人車を待つ人々。

端島海底炭坑鉱区領域図



資料：鉱業所資料

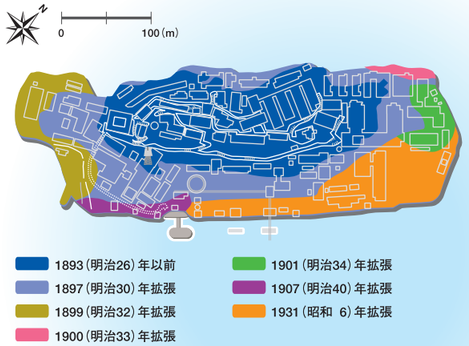
端島海底炭坑断面図



資料：鉱業所資料

島の拡張

当初、草木のない水成岩の瀬にすぎなかったこの小さな島は、採掘技術の発達とともに、周りを6回にわたって埋め立てる形で護岸堤防の拡張を繰り返し、今日の島の形状になりました。もともとは現在の3分の1ほどの大きさだったといいます。



1910年頃

1959年頃

閉山時の建物の配置図

現在も約半数の建物が残っています。

職員社宅　鉱員社宅　採炭関連施設　その他建物

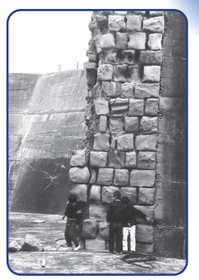
見学施設（見学広場・見学通路）
※この区域以外に立ち入ることはできません。

レンガ造りの第３竪抗捲座跡（資材倉庫）に隣接する総合事務所の中には、炭鉱マンのための大きな共同浴場があり、綺麗な浴槽に入る前に荒洗いを行っていた浴槽はいつも真っ黒だったそうです。この周辺には多くの建物がありましたが、現在ではそのほとんどが崩壊しています。

総合事務所

天川の護岸

明治期、島の拡張に伴う護岸づくりは、石灰と赤土を混ぜた天川（あまかわ）と呼ばれる接着剤を用いた石積み工法により盛んに行われました。この擁壁は現在でも島内の至る所に残っており、端島独特の景観を生み出しています。



南部プール落成水泳大会の様子。（昭和33年７月）南部プールが完成するまでは旧木造校舎の東端部分にありましたが、台風で大破したため移転建設されました。25メートルプールと幼児用プールが併設されましたが、海水を使っていました。65号棟屋上の幼稚園にもプールがありました。

プール

1916（大正5）年に建てられた30号アパートは、日本最古の7階建て鉄筋コンクリート造の高層アパートといわれています。鉱員社宅として建設され、内庭には吹き抜けの廊下と階段があり、地下には売店もありました。31号棟鉱員社宅には、地階に一般用の共同浴場があり、1階には郵便局や理髪店も設置されていました。

30号棟・31号棟アパート

精炭（精選された石炭）は、このベルトコンベアーによって貯炭場に蓄えられ、石炭運搬船に積み込まれました。今はその支柱が残るのみです。

貯炭ベルトコンベアー

第二竪坑入坑桟橋跡

主力坑だった第二竪坑を含め、鉱山施設は、現在ほとんど崩壊していますが、かろうじて第二竪坑へ行くために設けられた桟橋への昇降階段部分が残っています。

端島神社

危険と隣り合わせの鉱員たちにとって、神社は心の拠り所であり、毎年4月3日の山神祭は全島を挙げて盛大に行われました。神殿の下に拝殿もありましたが、倒壊してしまい、現在は祠のみが残っています。

ライフライン

電気や水道の確保は、端島では切実な問題でした。電気は当初、島の自家発電で供給されていましたが、人口の増加などに伴い電力不足となったため、1918（大正7）年に高島から海底ケーブルが敷かれ、送電されるようになりました。

▲県下一の電化製品普及率を誇った端島の家庭（昭和30年代）

また、飲料水も当初は海水を蒸留していましたが、のちに給水船で運ばれるようになり、高台にある貯水槽に蓄えられ、数か所の共同水栓から配給されるようになりました。風呂の水は海水を沸かしたもので、上がり湯だけしか真水を利用できませんでした。1957（昭和32）年には対岸の三和町から6,500メートルもの海底送水管が敷かれ、送水されるようになりました。これにより、端島での給水制限はなくなりましたが、高級職員用のアパートであった3号棟以外のアパートには室内風呂は設置されず、公衆浴場が利用されていました。

昭和30年代からプロパンガスが利用されましたが、それまではかまどを使っていたため、アパートには煙突がありました。

1958（昭和33）年完成。命がけで採炭に励む鉱員やその家族の健康を守ってくれる病院の存在は、端島に住む人々にとって、さぞ心強かったことでしょう。

端島病院・隔離病棟

端島小中学校

1893（明治26）年、三菱社立の尋常小学校が岩礁の上に設立されましたが、1921（大正10）年に村立となりました。1958（昭和33）年に建設された現存の建物は７階建てで、１階から４階までが小学校、５階と７階が中学校、６階には講堂、図書館、音楽室、７階には理科室などの特別教室が設けられていました。1970（昭和45）年には体育館や給食設備なども新設され、給食を運ぶ唯一のエレベーターもありました。

建物一覧表

建物名	建設年代	構造・階数	住居戸数	建設用途
1号	1936（昭和11）年	木造１階	—	神社
2号	1950（昭和25）年	ＲＣ造３階	9	職員社宅
3号	1959（昭和34）年	ＲＣ造４階	20	職員社宅（幹部用・風呂付）
5号	1950（昭和25）年	木造２階	1	砿長社宅
6号	1936（昭和11）年	木造２階	—	職員単身寮
7号	1953（昭和28）年	木造２階	—	職員クラブハウス
8号	1919（大正 8）年	RC・木造3階	4	共同浴場（1階）・職員社宅
12号	1925（大正14）年以前	木造３階	3	職員社宅
13号	1967（昭和42）年	ＲＣ造４階	12	町営住宅（教職員用）
14号	1941（昭和16）年	ＲＣ造５階	15	職員社宅（中央住宅）
16号	1918（大正 7）年	ＲＣ造９階	66	鉱員社宅
17号	1918（大正 7）年	ＲＣ造９階	54	鉱員社宅
18号	1918（大正 7）年	ＲＣ造９階	50	鉱員社宅（日給社宅）
19号	1922（大正11）年	ＲＣ造９階	45	鉱員社宅
20号	1922（大正11）年	ＲＣ造７階	26	鉱員社宅
21号	1954（昭和29）年	ＲＣ造５階	15	警察派出所（1階）・鉱員社宅
22号	1953（昭和28）年	ＲＣ造５階	12	老人クラブ（1階）・役場（2階）・町営住宅（公務員）カモメ荘
23号	1921（大正10）年	木造２階	6	社宅（1階）・寺院（2階・泉福寺）
25号	1931（昭和 6）年	ＲＣ造５階	6	宿泊所（1～2階）・職員社宅
26号	1966（昭和41）年	プレハブ2階	8	下請従業員住宅
30号	1916（大正 5）年	ＲＣ造７階	140	旧鉱員社宅（下請社宅）
31号	1957（昭和32）年	ＲＣ造６階	51	地下共同浴場・郵便局（1階）・鉱員社宅
39号	1964（昭和39）年	ＲＣ造３階	—	公民館
48号	1955（昭和30）年	ＲＣ造５階	20	鉱員社宅（地階パチンコ店等）
50号	1927（昭和 2）年	鉄骨２階	—	映画館（昭和館）
51号	1961（昭和36）年	ＲＣ造８階	40	鉱員社宅
56号	1939（昭和14）年	ＲＣ造３階	6	職員社宅
57号	1939（昭和14）年	ＲＣ造４階	8	商店（1階）・職員社宅
59号	1953（昭和28）年	ＲＣ造５階	17	地下購買会・鉱員社宅
60号	1953（昭和28）年	ＲＣ造５階	17	地下購買会・鉱員社宅
61号	1953（昭和28）年	ＲＣ造５階	17	共同浴場（地階）・鉱員社宅
65号（北棟）	1945（昭和20）年	ＲＣ造９階		鉱員社宅
65号（東棟）	1949（昭和24）年	ＲＣ造10階	317	鉱員社宅・端島保育園
65号（南棟）	1958（昭和33）年	ＲＣ造10階		鉱員社宅
66号	1940（昭和15）年	ＲＣ造４階	—	鉱員合宿（啓明寮）
67号	1950（昭和25）年	ＲＣ造４階	48	鉱員合宿（単身寮）
68号	1958（昭和33）年	ＲＣ造２階	—	隔離病棟
69号	1958（昭和33）年	ＲＣ造４階	—	端島病院
70号	1958（昭和33）年	ＲＣ造７階	—	端島小中学校
71号	1970（昭和45）年	ＲＣ造２階	—	体育館

※RC造：鉄筋コンクリート造